

622号	東部地域畜産経営技術推進指導協議会 富山県東部家畜保健衛生所	西部地域畜産経営技術推進指導協議会 富山県西部家畜保健衛生所	2021.3.10
☆ワタシに「お座り」をさせないで！～富山きときと空港に動植物検疫探知犬が配備されました～	1	☆祝 宮本忍さんが令和2年度富山県農業振興賞受賞 ☆祝 青沼光さんが令和2年度元気とやま農林水産奨励賞受賞 ☆今年度最後の北陸三県和牛子牛市場開催	4
☆高病原性鳥インフルエンザ情報	2	☆検査室レポート	5
☆豚熱ワクチン接種農場での発生予防対策に対する提言	3	☆防疫情報 ☆獣医学生インターンシップ研修	6

ワタシに「お座り」をさせないで！

～富山きときと空港に動植物検疫探知犬が配備されました～



モナ号



臭いを探知し「お座り」



オレンジが入っていました

海外からのアフリカ豚熱や口蹄疫といった家畜伝染病やミバエなどの植物の病害虫の国内侵入防止対策強化の一環として、農林水産省は富山きときと空港に動植物検疫探知犬のモナ号を配備しました。

動植物検疫探知犬は海外から到着した旅客の手荷物や国際郵便・宅配物の中から、肉製品や果物等を嗅ぎ分けて探し、肉製品等の臭いを見つけると「お座り」をして知らせる訓練を受けています。平成17年に成田国際空港に初めて動物検疫探知犬が2頭導入され、令和2年12月現在、動植物検疫探知犬は全国18箇所に105頭配備され、国際空港・海港もしくは国際郵便を扱う郵便局で日々探知活動をしています。彼らにより探知された畜産物の検査実績は1年間でなんと39,632件31,497kg（平成31年実績）に及び、この中にはアフリカ豚熱ウイルス遺伝子を検出した畜産物も含まれています。

2月19日にはモナ号のお披露目として探知デモンストラクションが公開され、モナ号は複数の中から見事にソーセージやオレンジが入っているスーツケースや段ボール箱を嗅ぎ分け、「お座り」をして知らせていました。

彼女らの活躍が越境性疾病の国内への侵入防止の一翼を担っています。

（東部家保環境課 西井課長）

高病原性鳥インフルエンザ情報

1 小矢部市の養鶏場で発生した高病原性鳥インフルエンザが終息

1月23日に小矢部市の養鶏場で国内38例目となる高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）が発生したことを踏まえて、県、小矢部市、いなば農協及び自衛隊員が出動して懸命の防疫作業に取り組んできた結果、1月28日17時に、殺処分、埋却、消毒等の全ての防疫措置が終了しました。また、防疫措置終了後10日間、制限区域内の養鶏農場等で異常が見られなかったことから、2月8日午前0時には搬出制限区域（発生農場から半径3km～10km）が解除されました。さらに、防疫措置終了後21日間が経過したことから、国と協議の上、2月19日午前0時に移動制限区域（発生農場から半径3km以内）が解除されました。これを受けて、同日8時30分から「第5回富山県HPAI対策本部会議」が開催され、新田知事がHPAIの終息を宣言しました。

2 県内の死亡野鳥におけるHPAI ウイルスの検出

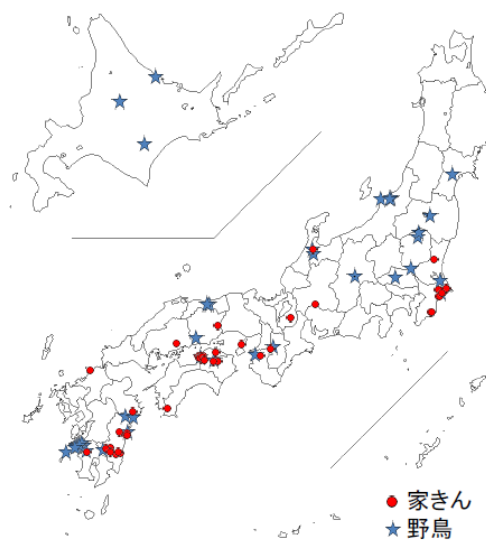
2月10日に小矢部市内で回収され、遺伝子検査で陽性となったノスリ1羽の死亡個体について、国の機関が確定検査を実施したところ2月22日、HPAI（H5N8亜型）ウイルスが検出されました。また、2月24日に南砺市内で回収され、簡易検査で陽性となったノスリ1羽の死亡個体についても、確定検査を実施したところ、3月3日にHPAI（H5N8亜型）ウイルスが検出されました。なお、本県の死亡野鳥からHPAIウイルスが分離されたのはこれが初めてです。野鳥からの検出を受けて、環境省は回収地点の周辺10km圏内を野鳥監視重点地域に指定し、野鳥の監視強化を続けていますが、現在まで死亡野鳥の増加等の異常は確認されていません。



ノスリ（出典：環境省ホームページ）

3 国内養鶏場におけるHPAIの発生状況（3月3日現在）

令和3年2月以降、茨城県、千葉県、宮崎県及び徳島県の4県で11事例のHPAIの発生が確認され、約350万羽が殺処分されました。11事例中7事例は千葉県での発生となりますが、そのうち5事例は匝瑳市で発生しており、令和2年11月～12月に香川県三豊市で発生したHPAIと同様に養鶏密集地域での続発が確認されています。千葉県では飼養されている採卵鶏全体の約1/3が殺処分されたこととなります。なお国内では、3月3日現在17県51事例の発生が確認されており、約979万羽（国内飼養羽数の約3.1%）が殺処分されました（関連記事6ページ）。



令和2年度 国内における高病原性鳥インフルエンザ発生状況

（出典：農林水産省ホームページ）

4 緊急消毒の実施

本年1月に県内の養鶏場で初めてHPAIが発生したことを受けて、県では2月10日以降、100羽以上を飼養する養鶏場に消石灰等を配布して、2月中に緊急消毒を実施するよう指導しました。県内における緊急消毒は、全国的に発生リスクが高まった昨年12月に全国一斉消毒を実施したことに続き2回目となります。また県では、昨年11月から、毎月20日を「県内一斉消毒の日」に設定し、生産者に重点的に消毒を実施するよう呼び掛けています。

（東部家保防疫課 後藤課長）

豚熱ワクチン接種農場での発生予防対策に対する提言

昨年末、本県と同様に豚熱のワクチン接種推奨地域である山形県と三重県の農場において、豚熱の発生が確認されました。現在、豚熱のワクチン接種推奨地域には、野生いのししの豚熱感染状況や農場周辺の環境要因を考慮し、飼養豚への感染リスクが高い地域が設定されています。本病ワクチンは、接種により十分な免疫を獲得した個体では、感染を防御することができます。しかしながら、ワクチンを適切に使用しても十分に免疫を獲得できない豚が一定数存在することは避けられず、こうした感受性のある豚が豚熱ウイルスに感染することを完全に防ぐことはできません。そのため、ワクチン接種推奨地域に所在する農場においては、本病ウイルスの侵入防止措置を一層徹底する必要があります。

ワクチン接種推奨地域での相次ぐ豚熱発生を受けて、疫学調査結果より牛豚疾病小委員会から以下の提言が示されました。本提言を参考に、改めて本病発生予防対策をお願いします。

1 衛生管理区域への野生動物の侵入防止対策及び人や車両の進入時の衛生対策

ワクチン接種推奨地域では、衛生管理区域内への野生いのしし等の侵入を防ぐため、防護柵等の設置が必要です。また、車両が衛生管理区域に進入する際には、消毒ゲートや消石灰帯による消毒のみでは、タイヤの溝等に汚染した土壌等が残っていた場合に十分な消毒効果が期待できないことから、十分な圧力のある動力噴霧機等により、適切に洗浄と消毒を行う必要があります。

2 作業着、手袋及び長靴の交換並びに交差汚染防止

山形県及び三重県の発生農場においては、「衛生管理区域に入る者の衣服の交換」、「豚舎ごとの靴や衣服の交換」等の取組みが不十分であるなど、農場や豚舎へ機械的な持ち込みによるウイルス侵入要因となり得る項目が確認されています。靴や衣服の交換前後での交差汚染を防止するため、着脱前後の動線をすのこ等で区分し、更衣の前後で靴等の置き場所を区別して、交換前後の動線を完全に遮断するといった措置を講ずることが必要です。

3 ワクチン接種農場における免疫を獲得していない豚群への対応

豚熱ワクチンは、母豚からの移行抗体が消失する時期に接種する必要があるため、ワクチン接種前の離乳豚群では母豚からの移行抗体が低下し、感染のリスクが極めて高い個体が一定数存在すると考えられます。このため、これらの豚を飼養する豚舎等については、特に感染が起りやすいことを念頭に置いて、飼養衛生管理をより一層徹底する必要があります。各農場においては、これらの豚が飼養される豚舎を確実に把握し、侵入防止対策と丁寧な観察等を特に徹底ください。

4 敷料の衛生対策

山形県の事例では、豚舎内で使用する敷料を屋外で保管しており、この保管場所に多くの野鳥が飛来していることや野生動物の侵入が可能であったことが確認されています。敷料は直接豚に触れるもので、経口的に体内に入る可能性もあるため、保管する際は、ブルーシートや建屋で覆うことにより、野生動物等の接触がないよう徹底する必要があります。

5 消毒液の選択及び交換頻度

山形県の事例において、豚舎出入り口に設置された踏み込み消毒槽に逆性石けんが使用されていましたが、逆性石けんは低温条件では消毒効果が激減することが分かっています。また、三重県の事例では、踏み込み消毒槽に炭酸水素ナトリウムを使用していましたが、本剤の消毒効果は十分に確認されているとは言えません。用途や温度条件等を勘案し、消毒効果が十分に得られる薬剤・方法を選択ください。

6 農場内作業動線及び作業手順

三重県の事例においては、飼育管理の際、豚を別豚舎に移動させることがあり、移動に当たっては屋外の通路や敷地内を歩かせていました。一般に、屋外通路の清掃、消毒を徹底することは困難です。豚舎間の豚の移動時には、可能な限り消毒済みのケージ等を利用ください。

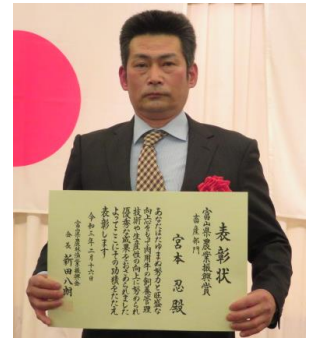
7 教育訓練等

飼養管理の際の衛生対策は、作業に携わる全ての者が漏れなく毎日欠かさず実施することが重要です。このため、飼養管理を行う者を明確にして、消毒や作業手順について要点を文書や図として整理するとともに、定期的な教育や訓練を徹底することが重要です。 (東部家保防疫課 水木係長)

祝 宮本忍さんが令和2年度富山県農業振興賞受賞

今年度の富山県農業振興賞の受賞者が決定し、畜産部門では氷見市の宮本忍さんが受賞しました。この賞は農業生産の振興を図るため、県内の優秀な農業者等を表彰するものとして制定されたもので、今年度で 55 回目となる伝統と実績のある農業部門の表彰制度です。宮本さんはたゆまぬ努力と旺盛な向上心をもって肉用牛の飼養管理技術や生産性の向上に努め、優秀な成果をおさめたことが評価されました。

2月16日に表彰式が執り行われ、新田知事から表彰状が授与されました。
おめでとうございます。(東部家保環境課 西井課長)



祝 青沼光さんが令和2年度元気とやま農林水産奨励賞受賞

農林水産業の担い手の育成を推進するために制定され、他の模範となる経営活動等を行っている者に授与される「元気とやま農林水産奨励賞」を高岡市の青沼光さんが受賞されました。これは、青沼さんが地域で発生する食品残さをエコフィードとして積極的に利用し、環境負荷の軽減に尽力していることや、酪農教育ファームの認証を取得し、地域の学校や消費者に対する食育活動を展開していること、また、県乳牛協会会長として県内の酪農の発展に貢献していること等が評価されたものです。

表彰状に記載されているのは光さんの名前ですが、日々の佳奈夫人との夫婦二人三脚での活動が認められた、ご夫婦2人での受賞と感じました。
おめでとうございます。(東部家保環境課 西井課長)



今年度最後の北陸三県和牛子牛市場開催

2月25日、金沢市の北陸三県家畜市場において、今年度最後となる和牛子牛市場が開催されました。今回は、去勢86頭、雌88頭の計174頭(本県からは去勢18頭、雌20頭の計38頭)の出品となりました。

平均取引価格は、去勢で683千円、雌で622千円、全体で652千円であり、最高価格は去勢で871千円、雌で751千円でした。

今年度開催された本市場の結果は、下表のとおりです。

		R2.5	R2.7	R2.9	R2.11	R3.2
頭数	全体	167	150	180	175	174
	富山県	40	44	66	55	38
平均価格 (千円)	全体	610	681	596	644	652
	富山県	605	704	601	651	641
	去勢・全体	651	722	639	688	683
	去勢・富山県	638	741	680	705	691
	雌・全体	548	622	546	576	622
	雌・富山県	568	616	527	575	597

本市場の年度別の平均取引価格はH27年度633千円、H28年度747千円、H29年度697千円、H30年度681千円、H31年度673千円、R2年度635千円と推移しています。H28年度以降高値が続いていた和牛子牛価格は、今年度に入り新型コロナウイルスの感染拡大による外食等での和牛肉の需要減少の影響もあり、全体的に下落傾向にあります。

来年度は新型コロナウイルス感染症が終息することを願うとともに、本市場で活発な取引が行われることを期待しています。(東部家保環境課 中村主任)

検査室レポート

【検査実施状況】

(令和2年11月1日～令和3年2月28日現在)

区分	畜種	診断名・検査名	件数	頭羽数	検体数
病性鑑定	乳用牛	牛コロナウイルス病	2	11	17
		牛RSウイルス病	2	7	7
		牛パストツレラ症	1	3	3
		牛クロストリジウム・パープリンゲンス感染症	1	1	1
		牛コクシジウム病	1	1	1
		壊死性腸炎	1	1	1
		肝膿瘍	1	1	1
		サルモネラ症	1	1	1
		創傷性第二胃炎	1	1	1
		第四胃潰瘍	1	1	1
		細菌性乳房炎	65	210	467
		その他	98	125	131
		肉用牛	牛パストツレラ症	3	4
	第四胃潰瘍		3	3	3
	牛コクシジウム病		1	2	4
	牛ウイルス性下痢持続感染牛		1	1	1
	牛パストツレラ症と牛マイコプラズマ肺炎		1	1	1
	双口吸虫寄生による鼓脹		1	1	1
	その他		53	58	58
	豚	豚トルエペレラ・ピオゲネス感染症	1	1	1
	鶏	高病原性鳥インフルエンザ	1	1	1
		鶏の豚丹毒菌感染症	1	2	2
		真菌性肺炎	1	1	1
		その他	7	21	21
	緬・山羊	急性鼓脹症	3	3	3
		壊死性空腸炎	1	1	1
		その他	17	19	23
馬	盲腸鼓脹症	1	1	1	
	その他	3	3	3	
あひる	循環障害	1	1	1	
一般検査	牛・豚・鶏・山羊		163	1,194	1,999
鳥インフルエンザ検査		分離・抗体検査	19	190	380
BSE検査	牛	エライザ検査	14	14	14
TSE検査	山羊等	ウェスタンブロットまたは免疫組織学的検査 (農研機構 動物衛生研究部門に依頼)	15	15	15
豚熱検査	野生いのしし等	PCR検査	19	103	137
合計			505	2,003	3,308

【トピックス】牛RSウイルス病にご注意を！

本病は牛RSウイルス（BRSV）感染による発熱と呼吸器症状を主徴とする急性伝染病です。RSとは「Respiratory Syncytial（呼吸器の合胞体）」の略であり、呼吸器の細胞を融合するという特徴から名付けられました。しかし、呼吸器症状以外にも妊娠牛では流産、泌乳牛では乳量の減少などの報告もあり、生産性に大きな影響を及ぼすことがあります。

BRSVに感染した牛は2～5日ほどしてから発症し、約40℃の発熱が5～6日間続きます。このウイルス単独での感染であれば、多くは2週間程度で回復しますが、宿主の体力（1～5カ月程度の若齢など）、環境（輸送、寒冷、群編成など）や細菌との混合感染といった影響によって重症化します。

本病に限らず、日頃から感染を予防する意識と環境をつくっていくことは、感染した際の重症化のリスクを減らすことにつながります。

(東部家保検査課 藤井主任)

防疫情報

全国の主な家畜伝染病の発生

高病原性鳥インフルエンザ（法定伝染病）（関連記事 2 ページ）

（3月9日現在）

事例	発生日	発生場所	経営形態	飼養羽数(万羽)	血清型
48	2月11日	千葉県匝瑳市	採卵鶏	約 7.9	H5N8
49	2月11日	千葉県匝瑳市	採卵鶏	約 27.8	H5N8
50	2月15日	千葉県匝瑳市	育雛	約 3.9	H5N8
51	2月25日	宮崎県都城市	肉用鶏	約 3.9	H5N8

県内の主な家畜伝染性疾病の発生

病名	畜種	発生日	戸数	頭羽数	備考
豚トウルエペレラ・ピオゲネス感染症	豚	2月4日	1	1	
牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症と肝膿瘍	牛	2月7日	1	1	
豚丹毒（届出伝染病）	豚	2月10日	1	1	と畜場発見
牛RSウイルス病と牛マンヘミア症	牛	2月10日	1	3	
牛パストツレラ症	牛	2月17日	1	1	

獣医学生インターンシップ研修

2月15～19日の5日間、北里大学獣医学科4年生の古林梨紗さん（富山県出身）が、インターンシップ研修として東部家保で家畜保健衛生業務について研修しました。解剖、ウイルス・細菌検査、BSE検査など研修内容は盛り沢山となり、大変だったことと思います。獣医師としての進路は今後じっくり思案されると思いますが、今回の研修を活かし、畜産分野で活躍する獣医師を目指して今後も頑張っていたきたいと思います。以下に研修の感想文を紹介します。

（東部家保 尾崎次長）

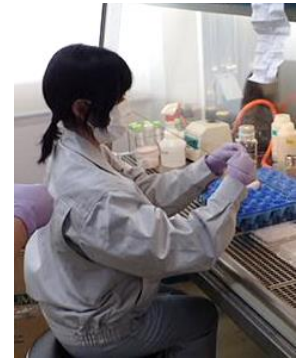
家畜保健衛生所での研修を終えて

北里大学獣医学部獣医学科4年 古林梨紗

大学卒業後、獣医師としての将来を考えるために東部家畜保健衛生所で研修を受けさせていただきました。

家畜保健衛生所で行われている仕事は病性鑑定や BSE 検査、農場 HACCP の取組み支援など多岐にわたりますが、それらを通して多方面から農家さん、家畜、食生活の安全に対して貢献していることがわかり、公務員獣医師としての役割や、やりがいの一端を新たに知ることができました。

今回の実習では学ぶ機会を与えていただき、とても有意義な5日間を得ることができました。今後はこの実習で得たものを生かし、獣医師になるために精進していくとともに、獣医師としてどのようなかたちで社会に貢献していくことができるのかを考えていきたいです。



編集後記

今冬の大雪により県内の畜産施設でも畜舎倒壊等の被害が確認されています。被害にあわれた方々にはお見舞い申し上げます。また、今シーズンは県内養鶏場での高病原性鳥インフルエンザの発生もありました。今年ほど春の到来を待ちわびた年はなかったかもしれません。暖かな日差しが例年以上に心地よく感じられる気がします。こんな時こそ、気を引き締め直さないといけませんね。

発行所 富山県東部家畜保健衛生所 http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/
〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6 電話(076)479-1106 F A X (076)479-1140
編集者 西井 純（富山県東部家畜保健衛生所）

